

令和5年度第3回 大和市子ども・子育て会議 会議録

日時：令和5年8月22日（火）午後2時～

場所：保健福祉センター 5階 501会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

(1) 第三期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について

事務局：(資料に基づき説明)

会 長：ただいまの説明について、ご意見・ご質問がありましたらお願いします。

委 員：「こども誰でも通園制度」について設問を新設されるということですが、設問を追加した場所について、なぜこの場所にしたのか理由を教えてください。国の部会の資料等を見ると、同制度は一時預かり等を発展させて行うという情報が出ています。一時預かりから同制度に変わって何が変わるのか等を見比べられるよう、一時預かり等の項目に入れた方がいいのではないかと個人的には感じたのですが、何か意図があればお伺いしたいと思います。

事務局：定期的な教育・保育事業を利用されていない方にお尋ねする設問なので、定期的な教育・保育事業を利用されていない方向けの設問の後に入れております。

委 員：内容がよく精査されていて、アンケートを受け取る方もそれを感じると思います。「子育てをしてもよかったこと」という設問が追加されましたが、子育てが素晴らしいことであるということが社会に共有されていくことが大切だと思うので、このような質問があることはとてもよいと思います。また、「今後、子育て支援の充実に向けて、どのようなことを望みますか」という設問について、選択肢がたくさん挙げられていますが、どれも実現するには予算のかかることなので、内容については精査していく必要があると感じました。

委 員：私もすごくよいアンケートだと思いました。一方で、2024年度から、幼児期の教育や家庭環境が将来の学力に影響するのかというような調査を行うと、文部科学省が昨日発表しまして、調査の時期がちょうど同じ頃ではないかと思いました。内容について重複するところが出てくる可能性もあるかと思いましたが、そのあたりについて、何かお考えでしょうか。

事務局：委員のおっしゃる文部科学省の調査について、私どもで状況が把握できておりませんので、重複等については考慮せずに作成しております。こちらでも情報収集をさせていただきます。

委員：まだ正式な発表ではありませんが、調査対象は5歳児という話があるので、対象年齢も重なるところがあるのではないかと思います。動向を見ていただいて、影響があるようでしたら、ご対応いただけたらと思います。

委員：二次元バーコードが各所に貼り付けてあることや、子育て支援サービス一覧もとてもよくまとまっていて、色もカラフルで読みやすい。用語の解説も分かりやすく、配慮されていると感じます。

委員：回答しやすいよう配慮された配置になっていて、素晴らしいと思います。今回新しく追加された「子育てをしておよかったこと、うれしかったこと」についてですが、同様の研究を見ますと、パートナーとの関係が深まったということも、子育てをしておよかったことに含まれるようですので、そうした選択肢があってもよいのではないかと思います。また、「今後の子育て支援の充実に向けて」という設問についてですが、ソーシャルワークの観点から子育て支援のニーズを捉えた研究によりますと、ニーズにはいくつかのタイプがあると整理されています。子育てをする家庭への直接的な支援、間接的な支援、そしてアウトリーチ型の子育て支援の3つがありまして、選択肢は直接的な支援が中心となっていると思います。子育てしやすい環境の醸成、例えば高齢者や学生と交流する子育て支援事業の充実や地域の中で子育て支援についての理解を深める講演会等、子育てしている方が家庭の外に出たとき、公共交通機関やベビーカーの利用に関して周囲の理解を得られない出来事に遭遇し、悩みを深めていくということもありますので、地域社会全体として、子育て世代、そしてその前後の世代の方への理解を深めていくと、間接的な支援になると思いますので、そうした選択肢があってもいいと思います。

委員：小学校就学後の放課後の過ごし方について、アンケートの対象は未就学児の保護者で、お子さんに兄弟がいる場合は分かっていることもあるかと思いますが、多くの方が小学校の中の居場所の施策について知らない中で、このアンケートに答えないといけないと思います。施策について、小さな字で補足説明をたくさん書いてありますが、アンケートの意図として、学齢期になったとき、こういった施策もありますという宣伝も含まれているのでしょうか。設問の意図をお聞かせいただければと思います。

事務局：小学校就学後の放課後の過ごし方について、様々な選択肢を用意していますが、この設問の意図は、放課後児童クラブのニーズの把握がメインとなっています。保育園の利用者が増加している中で、小1の壁と言われたりもしますが、切れ目なく受け皿を用意する必要があります。そのため、放課後児童クラブのニーズをしっかりと把握していく必要があります。アンケートの対象者は、宛名のお子さんが5歳以上の方となっていて、就学後のイメージができている方に対する質問となっています。

委員：「放課後子ども教室」、「放課後寺子屋やまと」が分かりにくいのではないかと思います。

っています。簡単に言うと、「放課後子ども教室」は遊び場の居場所、「放課後寺子屋やまと」は学びの居場所ということなのですが、少し伝わりにくいと思うので、分かりやすい補足があるといいと思います。

会 長：現状の説明では分かりづらいということですね。

委 員：そうですね。今話したような簡単な言葉のほうが伝わると思います。

事務局：ここについては、事務局でも検討しているところです。子ども教室と寺子屋については、現在、各学校で一体として運営しているので、選択肢として分けるのかといったことも含めて、検討いたします。

委 員：非常によくまとまっていて、子育て支援サービス一覧も分かりやすいと思います。一方で、子どもの貧困という部分において、例えば、大和市もこども食堂に支援をしていると思いますが、設問の中で、こども食堂の紹介や認知を拡大していくような、貧困なんだけど、どこかで助けてくれないかなという人が、支援について少し知ることができるような設問があってもいいのではないかと思います。こども食堂を利用したいかどうかという設問を入れる必要はないと思いますし、貧困について尋ねる設問はあるのですが、病児保育については手厚く設問を増やしている一方、子どもの貧困という部分については、少し手薄い印象を受けました

事務局：こども食堂に関しては、小学校就学後の放課後の過ごし方の設問の中にこども食堂という選択肢を設けています。また、子育て支援サービス一覧の年齢別サービスの紹介の中に、こども食堂がありますので、電子版で文字をクリックすれば、ホームページで詳細を見ることができます。子どもの貧困については計画にも位置付けられており、今回の調査項目の中に年収に関する設問もありますので、年収とのクロス集計で、そういった方がどういう支援を必要としているかということについて、一定のデータが得られると考えています。

委 員：内容が精査されていて、子育てをしている立場から見て、とても答えやすいと感じました。ただ、漢字がたくさん使われているのが少し気になっています。漢字が読めないというような知的ハンディがあると、役所で手続きする場合でも、書類の漢字が読めないからと諦めてしまう方もいます。障害がある方も平等に社会に参画してもらうためには、手助けが必要です。この3,000通の調査票は、できるだけ多くの方に読んでいただいて、答えていただいた方が、大和市の子育て支援の充実につながると思います。外国籍の方のフォローはあるのですが、日本人の方でも、答えたいんだけど漢字がちょっと全部読めなくて大変、そばに寄り添って援助してくださる方がいればという方に対して、市役所でお手伝いできますというような案内があると親切だと感じます。ご検討いただけたらと思います。

委 員：二次元バーコードがたくさんありますが、リンク先で音声で質問を読み上げてくれるというようなものではないのでしょうか。

事務局：そうではなく、既存のホームページにリンクを貼っているというものになります。

委員：初めて見た方にとっては、なかなか難しいアンケートだと思います。例えば児童クラブを利用したいと思っても、利用できる要件があります。保育園も同様です。すべての説明をすることは難しいと思いますが、例えば、児童クラブに入るための要件について、二次元バーコードから調べられるといいと思います。また、放課後の過ごし方について、放課後子ども教室など当てはまるものすべてに○をする質問となっていますが、例えば児童クラブと子ども教室は併用できるのか、子ども教室や寺子屋やまとは週に何回、何時まで開催されているのか、といったことを保護者は知りたいのではないかと思います。このニーズ調査は児童クラブのことを調べるすごく貴重な機会だと思います。児童クラブの入会要件には、障がいに関しての項目もあったかと思います。大和市では、児童クラブの利用者がとても増えており、ニーズを把握する貴重な機会であるので、これから5年間分の児童クラブの運営を考えると、きちんと入会要件を理解した上で答えてもらうことが大切だと思います。小さな文字で説明が書かれていますが、保護者がここまで目を通すかと疑問に思いますので、1枚の紙にまとめるのではなく、もう少し枚数を増やしてもよいと思います。また、アンケートの最後に子育てをする上で周囲に期待することということで自由記入欄はありますが、児童クラブについてフリーで意見を書ける欄があってもいいと思います。

事務局：正確なデータを取る意味でも、しっかりと制度の対象者や開設時間などを理解した上で答えていただくべきだと思いますので、このページの説明の仕方については次回までに整理をいたします。例えば、用語の解説の方にももう少し詳しくまとめること等を含めて検討いたします。

委員：これは調査なので、調査としてどうかということがまずもちろんあるのですが、調査の後のことも考える必要があると思います。私は大和市のLINEアカウントを入れているのですが、LINEから子育てのポータルサイトへワンクリックで行くことができます。各所に二次元バーコードを付けてありますが、大和市はよくお知らせを送付してくれるので、大和市のLINEアカウントは、常に上の方にあり、いろいろな情報に飛びやすいので、児童クラブの利用案内などもすごく知りやすいと思います。あくまでもこれは調査なので、市の施策の全体について知ってもらうことは難しいと思います。ポータルサイトの紹介もいいのですが、LINEアカウントを紹介して、ここからアクセスすると、情報が手軽に得られるんですよというようなことは知ってもらってもいいのではないのでしょうか。大和市からはLINEで常に情報が送られてくるので、フレッシュな情報に触れられるのではないかと思います。

委員：小学校に就学する、児童クラブに申し込むということについて、これまでは保

護者任せで、保育園から何か言うことはなかったのですが、ここ数年、児童クラブに申し込んでいないことが後から分かり、児童クラブに私たちが直接問い合わせをすることが増えています。中には、2月頃学校から配られる就学予定者の名簿に名前がなく、聞いてみると、何もしていないということがありました。これまでは保護者が自分の子どもが小学校に上がるに際して意識してやっていたことを、しなくなってきたと感じています。私たちも意識して、就学前健診や学校説明会には必ず行くように言っています。言わないと、就学前健診などに気づかず、4月から通う予定の学校の名簿にも載っていない、ということになってしまうのです。今後は秋になったら、私たちから先に発信しようかという話も出ているので、メールやLINEで通知があればいいと思います。子育て支援については、これまでどおりではなく、プラスしていかないと子どもが困る状況になるので、いい案があったらどんどん活かしていただきたいと思います。

委員：自分の子どもが0歳から1歳くらいの時に、前回のこのアンケートが届いて、記入したことがあるのですが、その時は子育てがとても大変で、日中子どもが起きている間に書こうとすると、子どもがボールペンを取ろうとしますので書けず、子どもを寝かしたあとに答えようと思っても、読んでいて途中で眠くなり。それを毎晩1週間ぐらい続けて、やっと最後まで回答できて、アンケートを提出できたというのをすごく覚えています。今これを読むと、さらっと頭に入ることでも、あの当時は全く頭に入らず、とても苦勞して書きました。それからもう5年ほど経つのですが、未だによく覚えています。なので、簡単に答えられるように工夫しているというのは大切なことだと思います。また、これを提出してくださるお母さんたちは、とても苦勞して記入すると思うので、この結果を大切にしてほしいと改めて思いました。

会長：子育て中の親からすると、とにかく分厚く、書くのが大変なアンケートだと思いますが、ぜひその結果を活かしてほしいと思います。

委員：不定期の一時預かり等の利用についての選択肢に、夜間養護等事業（トワイライトステイ）、短期入所生活援助事業（ショートステイ）とありますが、大和市のお子さんが具体的に利用できる施設があるということでしょうか。

事務局：本市にはありません。

委員：私もこの選択肢には違和感を覚えました。利用するには結構ハードルが高いものだと思いますので、安易に載せていいものかと感じました。大和市には児童養護施設はないということですので、利用する場合は、近隣の座間市、横浜市や藤沢市の施設ということになると思います。専門的な施設なので、保護者は気にならないと思うのですが、もし万が一、利用したいという問い合わせがあったらどう答えるのか、それなら最初から載せないほうがいいのではないかと思います。載せた意向や、統計的に利用者が多かったのかとか、そういったと

ころを伺います。

事務局：これに関しては、子ども・子育て支援法に基づく事業なので、ニーズがあれば市として体制整備が求められます。大和市にはそういった施設はなく、現状では、子ども・子育て支援計画上も量の見込み、確保方策は定めておりません。ただ、法律に基づく事業であることから、国としては実際にニーズがあるかどうかについて、調査することを求めています。その上で、実際に過去の調査で、そういった回答があったかどうかということですが、「トワイライトステイを利用した」という回答は、平成 30 年度は 0.1%、平成 25 年度は 0.0%でした。また、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならなかったときの対処方法として、「ショートステイを利用した」という回答は、平成 30 年度は 0.0%となっています。市内に施設がないということもあるかと思いますが、そうした対処をされた方は現状ではないという結果でした。

委員：先ほどから、すごくいいアンケートだという意見が多いです。この調査は子ども・子育て支援事業計画を作るための調査だと思うのですが、児童クラブ等のニーズを把握するのであれば、すごくいいアンケートだからこそ、余力があるのであれば、毎年実施した方がいいのではないかと思います。集計等で、職員の負担が大きいのであれば、計画のためでなく、多岐に渡る市政の運営に活かすアンケートとしてもいいのではないかと個人的に思いましたが、やはり集計等の作業は大変なのでしょうか。

事務局：こちらの調査は、基本的には計画の策定のタイミングで実施をしているものです。調査自体は、専門の事業者へ委託をする形で実施をしますので、例えば、調査票を印刷して発送するとか、戻ってきた調査票のデータを入力して集計するといった作業は、委託事業者が行います。ただ報告されてきたものを、チェックして誤りがないかということなどは私たちが確認しますので、職員の作業が生じるのも事実です。また、委託して実施しているため、1回の調査で500万円ほどの委託料がかかります。委託料の中には郵送代や印刷代も含まれていますが、費用としては相当程度かかりますので、実施の頻度については、費用のことを考慮する必要があると考えています。

委員：調査対象世帯数が3,000世帯というのは、費用の面を考慮してということなのでしょうか。

事務局：対象世帯数は費用の面ではなく、統計データとして有意なデータが取れる母数を確保するという観点から、3000世帯としています。

委員：アンケートの内容も大事ですし、実施することも大事ですが、アンケートの結果を受けて、実際どういう施策に反映していくのかということがさらに大事だと思います。調査結果の公表はされると思いますし、このアンケートの結果が2025年度以降、どうやって施策に反映されるのかというのは、まだ分からないと思いますが、このアンケートは、答えるのがそれなりに大変なので、回答し

てくれた方もいろいろな期待をしながら回答してくれるのではないかと思います。このアンケートを受けて、こういったことができましたといったことをアナウンスしてもらえると、答えた方に報いることになるのではないかと思います。

委員：子育てをしながらアンケートに回答することが負担になっている中、苦勞して保護者が回答していると思うので、回答結果がどのように市政に反映され、子育て支援の充実に向けた取り組みとして実現してきたのかというところも、アンケートに回答する動機づけの一つとしてはあると思います。謝品もその一つだとは思いますが、自分の回答がどのように地域の子育て支援への貢献につながっていくのかというところを事前に理解して頂いた上で回答してもらうことも大切だと思います。調査票に同封する資料や SNS 等で、これまでの同様のアンケートの結果が、どう大和市の子育て支援の充実につながっているのか、具体的な事例などを、文字だけでなく、視覚的にも感覚的にも分かりやすい形で載せ、理解してもらった上で回答いただくのがいいのではないかと思います。

委員：調査票の最初の印象は重要ではないかと思いました。調査ご協力のお願いの文章は明朝体ですが、固い印象があります。例えば、ゴシックであれば割と親しみやすいと思うのですが、フォントをすべてゴシックにしてはどうでしょうか。明朝だと、行政とすると見栄えがいい感じはするのですが、フォントがゴシックというだけで、もしかしたら答える方は少し読みやすくなるのではないかと思います。

会長：貴重な機会なので、子育て支援施策がこれまでにこのように充実してきたという実績を載せること、読みやすく、回答してみようという動機につながる工夫をしてほしいということですね。

委員：前回のアンケートの結果を受けて変わったことを示すのはなかなか難しいと思います。ただ、前回のアンケートからのこの5年間で変わったことが示されていれば、こういったことが変わってきたんだということが分かり、それならアンケートに答えてみようということになるのではないのでしょうか。児童クラブであれば、例えば心理士の巡回の回数が増えたとか、利用者が多かった民営の児童クラブの補助金を増やしていますとか、分かりやすく、小さな変化でも、こんなことが変わったんだと気付けるようなことが示されていれば、アンケートに答える意欲につながるのではないかと思います。

委員：謝品について、これはアンケートとは別にあとから送るのでしょうか。

事務局：アンケートに回答いただいた方に、後日郵送します。

委員：送料がかかるのですね。謝品の案の中では、ミニタオルがとてもよいと思いますが、最終的には事務局にお任せします。

会長：ほかにご意見はございますか。それでは、次回の会議では修正した調査票案が

提示されると思いますので、よろしくお願いいたします。

4. その他

会 長：では、続きまして4. その他について、事務局から説明をお願いします。

事務局：ほいく課から報告があります。今年度の第1回子ども・子育て会議において、来年4月に向け新規に開設予定だった認可保育所1園について、5月の段階で事業者からの手挙げがなく、今後の対応策については改めて検討すると報告していたところです。本日はその途中経過の報告となります。5月に報告した際も、県の認可となる認可保育所ではなく、市で認可ができる小規模保育事業所の誘致等も含めて考えていきたいとお伝えしていたところですが、現状ではまだ北部地域の保育ニーズが高いということで、来年4月に向け、小規模保育事業所1園の誘致・開設を目指すということで準備を進めていることを、改めて報告いたします。詳細につきましては、改めて報告いたします。

会 長：ほかにありますか。

事務局：次回会議のご案内をいたします。今回は、10月10日火曜日午後2時から4時まで、会場は保健福祉センター5階501会議室です。議題の中でもご案内したとおり、調査票について、改めてご覧いただく中で気づいた点がありましたら、8月31日までにお寄せください。本日の意見を含め、いただいたご意見について検討し、次回会議の際にブラッシュアップした形で提案いたします。

5. 閉会